

★音便（おんびん）とは

五段活用動詞の「連用形」が、以下の3種類に変化すること。

- ① イ音便 ...例 書く+タ ⇒ ×書き+タ ○書い+タ
- ② 促音便（そくおんびん） ...例 行く+タ ⇒ ×行き+タ ○行っ+タ
- ③ 撥音便（はつおんびん） ...例 読む+タ ⇒ ×読み+タ ○読ん+タ

言葉 下に続く	五段活用	活用の種類	活用語尾	
	書く	例語		
	か	語幹		
ウナイ	いこ	未然形		
タスマス、タイ	いき※	連用形		
ケレド	く	終止形		
ノテ	く	連体形		
ハ	け	假定形		
(い)	け	命令形		

①

次の（ ）にあてはまるように「咲く」の連用形を書き入れなさい。

(1) 花が（ ）咲き（ ）ます。「咲く」に続く形

(2) 花が（ ）咲い（ ）た。「た」に続く音便形

②

次の動詞の連用形を二つずつ書きなさい。

(1) 「浮く」…… 「浮く」…… 「ます・」…… 「た」

(2) 「笑う」…… 「笑う」…… 「ます・」…… 「た」

(3) 「運ぶ」…… 「運ぶ」…… 「ます・」…… 「た」

③

次の——線の部分を、正しい形に書き直しなさい。

(1) わたしは、飛び込み台に向かって必死に泳ぎた。

(2) 僕は、彼が来ないので、一時間も公園で待ちていた。

(3) 遠くの山に向かって、二人は「おい。」と叫びた。

(4) わたしは、書店で文庫本を買った。

(4) 「変わる」…… 「ます・」…… 「た」

解答

1 次の () () にあてはまるように「咲く」の連用形を書き入れなさい。

(1) 花が (**咲き**) (**ます**)。「ます」に続く形

(2) 花が (**咲い**) (**た**)。「た」に続く音便形

2 次の動詞の連用形を二つずつ書きなさい。

(1) 「浮く」……「**浮き**」 「**浮い**」

(2) 「笑う」……「**笑い**」 「**笑っ**」

(3) 「運ぶ」……「**運び**」 「**運ん**」

(4) 「変わる」……「**変わり**」 「**変わっ**」

3 次の——線の部分を、正しい形に書き直しなさい。

(1) わたしは、飛び込み台に向かって必死に泳なぎた。 (**泳いだ**)

(2) 僕は、彼が来ないので、一時間も公園で待まちっていた。 (**待って**)

(3) 遠くの山に向かって、二人は「おうい。」と叫なびた。 (**叫んだ**)

(4) わたしは、書店で文庫本を買かいた。 (**買った**)

解説

音便は、「五段活用動詞の連用形十た(て)」の場合に現れ、イ音便・促音便・撥音便の三種類がある。

(1) イ音便の例。

(2)・(4) 促音便の例。ともに「っ」に変わる。
(3) 撥音便の例。「叫んだ」としないように注意する。